

令和8年度
近畿大学大学院 総合文化研究科 入学試験
【一般】

日 本 文 学 専 攻
専 門 科 目 試 験 問 題

【創作・批評コース】

試験開始の合図があるまでに、次の注意事項をお読みください。

- 1) 解答はじめの合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
- 2) 机の上には、受験票、HBの黒鉛筆又はシャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り(電動式は除く)、時計(時計機能だけのもの)、眼鏡以外のものは置かないでください。
- 3) 辞書については、持ち込みを許可されている専攻・コースのみ使用可能です。(電子辞書は除く)
- 4) 試験開始後、解答用紙に受験番号・氏名を記入してください。
- 5) 試験開始後に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁等に気が付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 6) 試験終了後、問題冊子はお持ち帰りください。

令和7年9月13日実施

「一」以下の文学用語について、具体的な人名・作品名を挙げながら二〇〇〇～三〇〇〇字で説明しなさい。

- 1 〈文語定型詩〉と〈口語自由詩〉
- 2 〈私小説〉と〈大衆文学〉
- 3 〈新感覚派〉と〈プロレタリア文学〉
- 4 〈戦後文学〉と〈内向の世代〉
- 5 〈社会派ミステリー〉と〈新本格ムーブメント〉
- 6 〈伝記研究〉と〈作者の死〉

【出題意図】日本文学専攻で学修・研究をする上で必要な日本文学史についての基本的な知識を確認することを
目指した問題である。受験者の研究分野に基づいて日本の近現代文学の広いジャンルにわたるように出題している。

〔二〕以下の文に対する自身の意見を具体的な人名・作品名を例にしながら八〇〇～一〇〇〇字で論述しなさい。

創作の契機として、作者による先行作品の読解の方が、作者の体験したことよりも重要である。

【出題意図】日本文学研究に取り組むにあたり、文学研究における難問の一つである、作者の体験を重視するか、先行作品との文学史的な関係性を重視するか、という問題について、どの程度把握しているかという知識と、自分自身のスタンスを正確に説明できるか、という論理性と表現力を確かめることを目指した問題である。